

2020年3月29日(日)午後1時半～4時頃 (開場 午後1時)

**KARTH 研究 WG(ワーキンググループ) 第1回会議**  
**「京町家の木造伝統文化を活かして安心かつ快適に住み続けるための法令と共存可能な改修仕様の提示」\***

京都市の歴史的市街地には、建築基準法施行(昭和25年(1950年)11月23日)前に建てられた、地域の歴史・文化を伝える推定約4万8千軒の京町家が低層高密度に集積しています。一方、現在、地震大国日本において南海トラフ巨大地震の切迫性が危惧されており、町家及び町家が集積した歴史的市街地の安全性の社会的整備は喫緊の課題となっています。

しかし、上記町家は建築基準法施行前に建てられているために同法では既存不適格建築物として扱われ、小規模増築でも同法が適用されて大掛かりな改修が必要となり、地域の伝統文化を保全しながら住まいの質を高めて安心かつ快適に暮らし続けることが容易でない場合が多いといえます。

そのため、京町家をモデルに住まい手の負担が少ない方法で木造伝統文化を活かして安全性や住まいの質を容易に高めて安心かつ快適に暮らし続けることのできる、法基準に整合した改修方策を研究し提示する予定です。本研究は各地の伝統木造住宅の保全再生にも寄与するものと考えます。

KARTH 代表、KARTH 耐震・防火・土壁研究チーム 田村佳英

◆当日プログラム(予定)

1. 研究全体概要の説明
2. 既存京町家の防火・耐震特性
3. 京町家の保全・活用に対する住まい手のニーズ
  - 1) 今後も住まい、職住併用住宅として、又は他用途に変更して保全・活用していきたい理由と特に保全・継承していきたい内容
  - 2) 住まいとして今後も保全・活用していく上で不安・不便な点、改修したい内容
4. 京町家の保全・活用に影響する法規制
5. 地域の災害リスク：火災、地震 他
6. 京町家の木造伝統文化を活かして安心かつ快適に住み続けるための法基準に整合した方策の提示(ケーススタディ含む)

◆当日出席者(予定)：町家の住まい手、設計者、木造伝統構法の大工棟梁・左官職 他

◆会場：西陣ヒコバエノ家

京都市上京区上立売通浄福寺西入姥ヶ東西町 632 番地

(築約 170 年、江戸時代後期築の町家を 2000 年に木造伝統構法で防火・耐震改修。同改修手法の有効性を防火・耐震実験で検証して実現した日本初の町家。現在は居住実験中)

◆参加費：無料

◆参加方法：お名前、所属、電話・FAX番号、メールアドレスを明記の上、3月20日(金)までにメールまたはFAX、電話でお申込み下さい。

◆参加申込み・問合せ：NPO 法人 関西木造住文化研究会 (略称 KARTH：カース)

TEL 075-411-2730 悠計画研究所内、FAX 075-411-2725、E-mail

[info@karth.sakura.ne.jp](mailto:info@karth.sakura.ne.jp) <http://karth.org/> 住所は会場に同じ

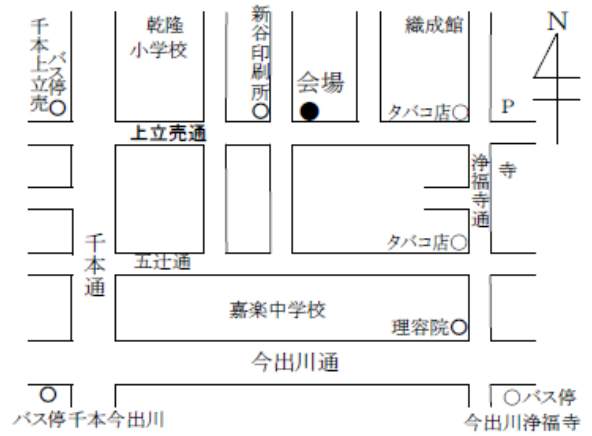
\*2019 年度公益信託大成建設自然・歴史環境基金助成研究。京町家:本研究では、広義の意味で、建築基準法施行(昭和 25 年(1950 年)11 月 23 日)前に建てられた伝統的な木造軸組構法の建物を指しています。

## ●交通アクセス

最寄バス停「今出川浄福寺」、「千本今出川」、「千本上立売」より徒歩約5分、目印:角地、お地藏さんのある家

### ★JR 京都駅より（所要時間 約40分）

- ①地下鉄利用の場合：地下鉄烏丸線「烏丸今出川」駅下車、3番出口、烏丸今出川交差点の今出川通の東側バス停から西行きバス乗車、「今出川浄福寺」下車
- ②市バス利用の場合：JR 京都駅北側（烏丸口）バス乗り場A3の206番に乗車、バス停「千本上立売」下車又は、B2の50番又は101番乗車、バス停「千本今出川」下車



会場案内図

## ●KARTHとは 主な研究・活動の概要⇒<http://karth.org/>

★当会は、「伝統木造住宅の多くが消滅した阪神・淡路大震災での反省、木造伝統構法の衰退の危機、近い将来予測されている大地震発生の狭間の中で、阪神・淡路大震災の悲劇を二度と繰り返さないために、我々、建築専門家は何をなすべきか？ その答えを見つける」ために1998年11月に発足しました。

★それ以降、京町家をモデルに、「地域固有の木造伝統文化を活かした安心して暮らし続けられる住まい・まちづくりの実現」をテーマとして、既存伝統木造住宅の防災性能向上手法の総合的・工学的な研究開発・提案及び研究成果の啓発活動に取り組んでいます。

各地の様々な分野の研究者、木造伝統構法の技能者・職方、設計者・施工者、市民の方々等の参画による総合的知見を活かした協働研究方式をとっています。

★各自自立しながらも所属を超えて対等な立場で自由に参画でき、必要に応じて連携することにより、社会に向けてより大きな力を発揮できる場づくりを目指しています。

## 主な研究例(概要は上記の当会HP参照)

勉強会会場



江戸期の町家の伝統構法による防火・耐震改修(1999-2000)



伝統的軸組構法の木造土壁せん断耐力試験(2000、2003)



伝統的軸組構法の木造土壁の火災安全性実験(2000、2002)



既存京町家の振動実験(1999-2003)



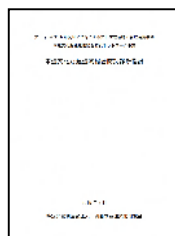
住まい手向け既存伝統木造住宅の防火・耐震改修手引き(2006-2007)



建築設計者・施工者向け既存伝統木造住宅の防火改修設計・施工マニュアル及び同マニュアル術解説書(2007-2010)



(京都左官協同組合との連携) 建築実務者向け既存京町家の土壁設計・施工・維持管理マニュアル(2014)



H26年度文化庁事業木造文化財建造物総合防災診断指針(震災、火災、水害・土石流災害、雪害、樹木災害、2014)



新潟被災住宅修復調査報告書(2007-2009)



市民向け「地震発生後の被災建物の対処の仕方」チラシ(2008-2009)



「浸水被害を受けた竹小舞下地土壁の扱いについて」チラシ(2018)